

万田坑、復坑



3 **選炭場跡**
せんたんばあと
 1903（明治 36）年に建設された選炭場がありました。選炭機 2 台が備え付けられ、第一堅坑から搬出された石炭を大きさや質ごとに分けていました。石炭は貨車に積み込まれ、三池炭鉱専用鉄道で九州鉄道万田駅（現 JR 荒尾駅）や三池港を經由し、国内外へと運ばれました。



4 **事務所（旧扇風機室）**
じむしょ きゆうせんふうきしつ
 1914（大正 3）年頃の建設当初は、坑内の換気を行う電気を動力とした巨大な扇風機が備え付けられた扇風機室でした。1951（昭和 26）年の万田坑閉坑期から1階を更衣室などに、2階を事務室と坑内の監視室として利用していました。国重要文化財



5 **汽罐場跡**
きかんばあと
 1898（明治 31）年に建設された煉瓦造の汽罐場がありました。汽罐場とは、石炭を燃やし蒸気を発生させる施設で、坑内の各施設に蒸気を送っていました。最も多い時期には3箇所の汽罐場がありましたが、動力が蒸気から電気へと移っていくにつれ、規模を縮小していきました。



6 **安全燈室及び浴室**
あんぜんとうしつおよびよくしつ
 1905（明治 38）年頃の建設当初は、扇風機を動かす機械室として利用していました。1951（昭和 26）年の万田坑閉坑に伴い、安全燈室と浴室として利用していました。安全燈室には、暗闇の坑内で使用する安全燈（ヘルメットに付けるランプ）の充電器が備え付けられています。国重要文化財



7 **山ノ神祭祀施設**
やまのかみさいしせつ
 山ノ神祭祀施設は、万田坑で働く人の安全祈願のため、1916（大正 5）年に大山祇神を分祀したものです。炭鉱マンは、入坑前に怪我をせず無事に作業を終えられるように、山ノ神の方に向かって必ず拝礼をしていました。国重要文化財



2 年間を掛けた修復を経て、今年 4 月 25 日にグランドオープンしました国重要文化財・万田坑の各施設を紹介しましょう！このゴールデンウィークはイベントも目白押し。最盛期の面影を取り戻した万田坑を見学してみませんか。

1 **第二堅坑巻揚機室**
だいにたてこうまきあげきしつ
 1909（明治 42）年に建設された 2 階建の施設（機械室）です。施設内にある巻揚機は、炭鉱マンが乗るケージ（エレベーターのかご）を昇降させていました。また、機材の搬入・運搬を行うためのウインチも設置されています。国重要文化財



2 **第一堅坑坑口**
だいいちたてこうこうぐち
 採掘された石炭を地上に揚げるための坑口で、坑底までの深さは 271 m。坑口の両側に立つコンクリート壁は、1899（明治 32）年当時東洋一の規模を誇った高さ 30.7 m の櫓の基礎部分です。櫓は、1954（昭和 29）年に北海道の三井芦別炭鉱に移設され再利用されました。



【駐車場収容台数】
 大型バス 5 台
 中型バス 3 台
 普通乗用車 72 台

【ご注意】
 ※坑内での飲食はご遠慮ください
 ※車イスをご利用の人も介護者同行のうえ、見学できる区域があります
 ※坑内は禁煙です。また、ベットの立ち入りはお断りします

開坑時間
 午前 9 時 30 分～午後 5 時
 （入坑受付は午後 4 時 30 分まで）

休坑日
 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
 12 月 29 日～1 月 3 日

入坑料

	個人	団体（20人以上）
大人	400 円	320 円
高校生	300 円	240 円
小・中学生	200 円	160 円
小学生未満	無料	無料